

地域のアトリエで、子どもたちにもたちらに 描く楽しさ、つくるおもしろさを伝える

ミネタトモコ (造形アトリエ主宰・イラストレーター)



最近は墨で描くのが好き。子どもたちの絵から刺激を受けることもある。

アトリエを構えて 地元密着の教室に成長

教育学部の美術科を卒業後、テキスタイルデザイン事務所に勤務。その後フリーランスとなり、洋服のプリントデザインやイラストの仕事をしてきた。あるとき、

長女の幼なじみのお母さんに子どもの絵の指導を頼まれた。最初は自宅で教えていたが、東京・小金井市に引っ越したことを機に、自宅とは別にアトリエを借りて本格的に造形教室をはじめたことに。「造形教室で使う廃材などを集めていたのですが、部屋が廃材だらけになって限界を感じて、思い

切って自宅外にアトリエを借りることにしました。はじめは商店街の一角の空き店舗。商店街にはいろいろな人が通るので、何かと声をかけてくれます。でも、入口に生徒募集のチラシ100枚を置いても入会するのは一人、という感じでした。それでも地域でのつながりはできたかと」

長女につくってもらったホームページの効果もあり、アトリエの生徒は少しずつ増えていった。幼児クラス、油絵クラスを増やし、現在は常時40人以上の子どもが通う。子どもたちの作品展も毎年開催。アトリエは1DKのマンションに移転して、現在に至る。

「子どもの年代は小学校の低学年が多いです。親も子も、絵や工作が好きな子が長続きしますね。この仕事のおもしろさは、自分とは違う感性の子と出会えること。うれしいのは、子どもが本当に楽しんでる姿を見られること。自分も子育てをしてきているので、小学生の反抗期も『反抗も必要だ



ある1日

- 10:00 造形講師をしている保育園で、ぐいぐいお絵描き。4歳児に「えのぐのせんせい」と呼ばれる。
- 14:00 アトリエ到着。大音量で布袋寅泰を聴きながら掃除。ベランダのサボテンと会話。
- 16:00 小学生と一緒にシクラメンを描く。
- 19:00 子どもたちの作品を撮影。Instagramへ投稿。墨でスケッチ。保護者へメールの返信。
- 22:00 1日を振り返りながら老犬と散歩。

大学卒業後、テキスタイルデザイン事務所に勤務。独立し、洋服のプリントデザインやイラストを描く。長女の友だちのお母さんに子どもの絵の指導を依頼されたことをきっかけに、子ども造形教室を開始。子どもたちの作品展、自身の個展も定期的に開催する